

令和3年度 学校評価
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立浅羽野中学校
実施日	令和4年2月18日

〇「自己評価」及び「学校関係者評価委員会評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

〇「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	〇学校経営ビジョンは年度初めの会議や研修を通して周知できていた。 〇校則等、ルールについて、共通理解、共通行動のために細かく確認し、指導を充実させる。 〇全教科、領域、学年で教育目標の具現化や重点目標に向けた取組を充実させる。 〇特色ある学校づくりとして、来年度よりコミュニティスクールを機能させ、地域防災を核とした取組を行う。	A	〇学校経営ビジョンが提示され、先生方に周知されている。 〇「あいさつ」運動等、一つでも十分なので、学校全体・学年で徹底することが重要だと思います。波及効果も期待できるとしています。 〇特色ある学校づくりを目指し、努力していることを評価する。 〇「決中力」の目的達成、そして生徒に対する教育目標達成の活動を応援します。 〇目指すビジョンをわかりやすく理解させることが大切です。達成度点検ができればベターです。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	〇研修や訓練をもっと増やしていく。途中の生徒は地震対応はよくできているので、例えば不審対応等も、生徒、職員共に行う。 〇より具体的に危機管理研修や防災訓練を実施していく。 〇様々な訓練の内容をローテーションして実施するなど工夫をする。 〇部活動時に常に顧問がスマホを持参するなど、緊急時の具体的な対応策を整備する。	A	〇コロナの影響もあるかもしれないが、マニュアル等その他の情報が伝わっているが疑問。 〇想定外の危機に対して、日ごろの訓練は欠かせない。 〇防災訓練は、「継続が力」、時を運ばない災害発生には、訓練パターンを変えてみる必要もあるのではと感じます。
	3	学校は、働き方改革を意図して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	B	〇ノー残業デーや年休の取得など、管理職が呼びかけ、職員に促している。具体的な策を講じて、さらに機能させていくことが必要である。 〇打刻は土日も含めてできているので、正確に勤務時間が記録できている。 〇計画的な休暇をとるために具体策を講じる。 〇学校全体に関わる分掌などは、業務量のバランスなどを考えて指名する。	B	〇ノー残業デーや年休の取得など管理職が呼びかけ、促しているが、休めないのが現状。仕事量を減らす工夫ができればいいのではと思う。 〇先生方の尽力には感謝しております。職員のコンディションが、教育活動の成果に大きく影響するので、健康管理は非常に大切なことと考えます。 〇コロナ等で会議、行事が縮小されていると思いますが、その中で有効に機能していることを評価する。 〇コロナ禍での対応や生徒のケアなど計画的におこなっていないと思う。 〇長時間労働の要因は「部活動が多い」「保護者やPTAの対応」と聞いている。削減の対策が必要ではないでしょうか。部活の外部委託など検討はいかがですか。 〇休憩専用の部屋はありますか？
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。(市共通項目)	A	〇学び合いを意識した授業づくりが、各教科行われている。 〇研修での学びを、さらに実践につなげるために、モデルの作成・提示や成果の見える実践や資料の共有を進めていく。 〇人間関係づくりにも力を入れていくことで、より成果が期待できる。 〇TTや少人数指導などを機能させて、学力向上に向けた取組を充実させた。	A	〇研究授業は単調になりがちな授業展開の刺激となります。その後の取組を含め、工夫していくのは良いことだと思います。 〇生徒との対話をもとに授業を改善していることを評価する。 〇教師はチームの一員であり、報道相や教師としての点検、P.D.C.A.の取組は大変良いと思います。 〇研修、人的交流は必要であり、計画的に実施されることを願います。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	〇いじめ防止については、いじめた側への指導を確実に。社会性や考え方の多様性などの変化から、コミュニケーション力や「受け止め方」の指導も考えていく必要がある。 〇学校を休んでいる生徒への対応を引き続き丁寧に行う。プリントや手紙を届けるなど対応する。 〇道徳の授業は、学年でのローテーションが機能している。	A	〇コロナ禍で生徒指導が困難だと思います。心の琴線に触れる指導の継続をお願いします。 〇いじめ問題等の話題が出ていないことを評価する。 〇学校と父母の連携が大切。 〇教師から生徒への一方通行ではなく双方向の教育へ、子供たちの多様性を尊重するように願います。 〇親とは異なる愛情表現も時には必要。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	B	〇生徒の学習への取組は良くなっている。さらに、家庭学習の充実に取り組んでいく。見届けも丁寧に行っていく。 〇全体的に落ち着いた様子で取り組んでいる生徒が多い。忘れ物や提出物などについては、今後も家庭と連携して取り組みたい。 〇話をしっかり聞くことはできる。今後も継続して発表する力をつけていく取組を行う。 〇学習への取組が将来につながることを伝え、内発的動機付けにつなげる。	A	〇生徒は大きな声であいさつしている大変評価できる。 〇校内ではできていても、校外になるとできていないことがある。 〇少子孤立の生徒が多い中、優しい言葉を送る者は多く存在する。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	〇報道相の徹底や確実な引継ぎを行い、風通しの良い職場環境を整えていく。 〇倫理確立委員会の資料や、新聞記事など活用して事故防止のための情報共有や研修がしっかり行われていると思う。 〇学校規模を生かして、学年間の連携をより密なものにしていく。若い教員が増えている状況の中で、互いに相談しやすい環境を整える。	A	〇不祥事防止計画及び倫理確立委員会が決定したことが実施され職場の雰囲気の良いことを評価する。 〇経験や知識の共有が必要。 〇先日、「子供たちが笑顔でいられる教師になります」と21歳の女子大学生が投稿していました。そのような職場を作ってください。 〇課題の共有と改善は職場一体となって取り組んでほしい。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にしている態度で接している。	A	〇生徒が失敗から学ぶ経験ができるような、温かい雰囲気づくりをすすめていく。 〇生徒のニーズに応じた対応ができていることは評価できる。 〇「傾聴から個に応じた適切な指導」を意識して全校で取り組んでいる。	A	〇御苦労している様子が伺えます。今後もよろしく願います。 〇生徒一人一人に合った指導をしていることを評価する。 〇早期発見、早期対応が必要。 〇家族の悩みを言い出せないヤングケアラーに対し、相談体制の整備をお願いします。スクールソーシャルワーカーなど学校外の専門家と調整するのはいかがですか。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	〇特別支援教育についての研修を充実させていく。 〇ユニバーサルデザインについて、教育相談部会を中心に、全校で取り組んでいく。掲示物だけでなく、授業の進め方などについても研修を深める。	A	〇先生方は、とても誠実に生徒に接していると思います。 〇特別支援学級と通常学級と交流していることを評価する。 〇特別支援学級の生徒への対応には、工夫が多いと思います。専任担当教師の増員をご検討ください。 〇教師の提案自校実現を大切に。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	〇定期的な安全点検により、不具合のある箇所は修繕等の対応をしている。 〇日々、校舎内外の見回り・点検を実施している。その場で対応が可能なものは適切に対応している。	A	〇古い掲示物や破れた掲示物を外したり修理したりするなどの作業を分掌したり、生徒会の委員会(美化や環境委員会等があれば)を活用するのも良いのでは。 〇定期的な危険箇所等を把握し、修繕生徒の安全を守ることに努めていることを評価する。 〇校内はたいへんきれいに見えます。挨拶も良いと思います。しかし、校内外で挨拶には少し差が見られるようです。 〇校外ボランティア集団の活用も一手。

家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。 (市共通項目)	A	○毎日のHPの更新で、新しい情報が発信できている。 ○学校だよりやメールを活用し、学校の情報を定期的に発信できている。	A	○ホームページで授業の様子や給食献立等が定期的に更新され、学校の様子がよくわかる。 ○ホームページ等で情報を共有していることは評価するが、保護者が活用できているか疑問。 ○ホームページや学校だよりでの情報発信はありがたいです。各種大会で成績優秀者氏名の伏字は再考をお願いします。生徒には名誉と思います。 ○情報発信の組織化を。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	○定期的な登校指導や見守り隊など、地域と連携し、解決、防止にあたっている。 ○来年度からのコミュニティスクールの本格実施に従い、地域人材の活用を推進していく。 ○子育て支援課、児童相談所、SO、SSWなど関係機関との連携を充実させる。	A	○不登校のお子さんについては、積極的にSCやSSWを活用し、日中の家庭訪問や関係諸機関との連携を深める。 ○先生方の前向きな姿勢が素晴らしいと思います。 ○防犯パトロール等でボランティア団体の協力があり、うまく機能していると思う。 ○いじめのアンケートは年3回は必要と思います。 ○地域自主防災組織との交流機会を増やす努力が必要。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。 (市共通項目)	B	○シラバスの作成など学習面での情報共有など教科・領域部会の機会を持つてよい。 ○小中共通で行っているノーテレビ・ノーゲームデーは生徒の取組の様子を把握していく。	A	○先生方の相互指導について、どの程度進んでいるのでしょうか。 ○小学校と交流がとれて、良い関係ができていると思う。 ○小学生は中学生と先輩として見えています。将来の入学生です。幅広い連携が必要だと思います。合同の体験授業もいかがですか。 ○連携と同一化は異なる意味もあり、差異も特徴の表現である。
各種行事	14	各行事がそれぞれの目的達成のために充実した取組になっている。	A	○コロナ禍で制限のある中での行事となったが、生徒の満足度は高いように思われる。 ○生徒主体となるような活動を学校全体で充実させていく。 ○生徒会や委員会の活動をより充実させていく。	A	○「学校のために動く」生徒の充実感、達成感に向けて、より良い考えだと思えます。 ○コロナの影響で縮小しての行事で目的達成できたことを評価する。 ○過去の例にならうのではなく、生徒の意見を取り入れた活動を実施している。 ○部活動の見直しは賛成です。
健康体力部活動	15	生徒の健康の保持増進、個性の伸長が行われている。	A	○学校全体として、換気や消毒など感染症対策に取り組んでいる。 ○食育授業や性教育など、コロナ禍でも工夫して実施することができた。 ○定期的な保健だよりの発行が行われている。 ○食事や睡眠など、基本的な生活習慣の確立について家庭との連携を深めていく。	A	○栄養や睡眠については、家庭の協力が必要不可欠ですが、家庭科や保健体育、学級指導等で生徒自身に考えさせたい。 ○健全な生活習慣の育成をできたことを評価する。 ○体育祭を見学して、生徒の間で体力差を感じました。体育に力を入れてはいかがでしょうか。
教職員資質向上	16	教職員が研修に取り組み、資質の向上を図っている。	A	○研修内容を共有する機会を充実させ、研修の成果を実践につなげる。 ○生徒の実態、教職員からの意見を踏まえ、ニーズに応じた研修を充実させる。 ○今年度は、特に若手教員の授業公開の機会を充実させた。 ○人間関係づくりや教育相談、特別支援教育などの研修を充実させる。	A	○様々な取組が効果的になるようにお願いします。 ○研修テーマに基づいて校内研修が行われたことを評価する。